

山梨北中ブロック交流研究会

テーマ 「小中の連携を深め、山梨北ブロックの児童・生徒の指導に生かす」

I 主題設定の理由

山梨北中ブロックの児童・生徒を健全に育てるためには、普段交流の機会の少ない小・中の教職員が共有の活動や話し合いを持ち、教育上の課題を見つけ、より良い解決の方法を探り、連携を深めることが必要だと考える。

本ブロックでは、同じ地域で学ぶ子どもたちをともに教育するという立場から、地域に対して共通理解を深める臨地研修や共通する教育課題に対して講師を招いて学び合う学習会を行ってきた。昨年度まで教師としての姿勢や特別な支援を要する児童・生徒への支援など、小中で共通に学習し合える内容で学習会を行ってきたところ、児童・生徒の指導に生かせる有意義な内容であったと成果を確認し合うことができた。また、小中の授業参観や研究会についても継続して行ってきたが、児童・生徒の理解が深まるとともに、発達段階による特性や各校の特色など交流し合うことができ、その意義を実感できたところである。

本年度も小中で互いに授業提供を行い、学習内容や指導事項の共有化をはかったり、子どもたちの状況や学習環境などの共通理解を深めたりすることが大切であると考えた。また、共通する教育課題についての学習会を設定し、教師としての研鑽を積むことが必要だと考え、本テーマを設定した。

II 研究の具体的内容

1 第1回交流研究会(講演会)

(1) 目的 小中の共通する教育課題について専門的な立場から話を聞き、学習を深め、児童・生徒の指導に役立てる

(2) 日時 平成28年8月5日(金) 14:00～16:30

(3) 内容 学習会(講演会)

演題 「すべての児童・生徒への対応」

～特別支援教育の視点からの子どもへの対応を学ぶ

講師 武井恒先生(県立かえで支援学校教諭)

- 内容
- ① アイスブレイクとその意義
 - ② 特別支援教育の教材・教具
 - ③ 特別支援教育の基礎基本
 - ④ 発達障がい体験しよう
 - ⑤ 具体的場面別対応

2 第2回交流研究会(中学校授業参観)

(1) 目的 中学校の授業参観を通して生徒の実態や学習活動について知り、研究会における情報交換や懇談を通して、小中の連携を強化し今後の教育活動に生かしていく。

- (2) 日時 平成28年11月16日(水) 15:10～授業参観
16:10～学年別研究会

(3) 場所 山梨北中学校

(4) 内容 山梨北中学校の授業を参観し、情報交換や意見交換を行う。

3 第3回交流研究会(小学校授業参観)

(1) 目的 小学校の授業参観を通して児童の実態や学習活動について知り、研究会における情報交換や懇談を通して、小中の連携を強化し今後の教育活動に生かしていく。

- (2) 日時 平成29年1月18日(水) 14:00～授業参観
15:00～研究会

(3) 場所 後屋敷小学校・岩手小学校

(4) 内容 後屋敷小学校・岩手小学校の授業を参観し、情報交換や意見交換を行う。

III 成果と課題

1 成果

- ① 第1回の講演会では、特別支援教育の視点から通常学級を含めて困難さを感じている児童生徒に対する対応を、具体的な事象にそって学ぶことができた。教師の分析により、合理的配慮の工夫が可能であり、その工夫によって救われる子どもたちがいるのだということを自覚できた。明日の実践に行かせる研修であったと好評の感想が得られた。
- ② 第2回、第3回の中学校、小学校の授業を参観と交流研究会では、連携の面でも指導を振り返る面でも有効であった。中学校の授業参観では、小学校の段階でどのようなことが必要なかを考えることができた。小学校の授業参観では、きめ細かな指導を見ることができ、中学校の実践への振り返りにもなった。児童生徒の発達段階や学習の定着度に応じたきめこまかな指導の必要性を感じた。

2 課題

- ① 中学校、小学校の授業公開も発達段階に応じた指導、学校規模の違いによる指導など学ぶべき点があるので継続していきたい。
- ② 授業を見る視点を事前にもつことでより、授業内容における指導の方法や工夫、児童への対応などを学ぶことができるのではないかと思う。
- ③ 家庭学習のやり方や内容などを小学校・中学校で情報交換をすることが必要である。
- ④ 特別支援の立場での情報共有や具体的な対応については、特別支援学級や発達障害の児童だけではなく、定型児童への対応にもつながることであるので学習を続けたい。
- ⑤ 次期学習指導要領の内容についての課題把握や、研究など喫緊の情報などもふまえての研究会を続けていきたい。

(ブロック長 雨宮久)